

第4回今治市中心市街地創生デザイン会議 議事概要

日 時：令和6年7月19日（金）午後1時30分～午後3時00分

場 所：今治市みなと交流センター「はーぱりー」 1階 みなとホール

出席者：井口梓、大成経凡、羽鳥剛史、菊川堅吾、原竜也、友田康貴、長野和幸、南條仁、越智智美、青陽孝昭、窪仁志、山本優子（第一号委員から第三号委員毎に五十音順）

議事

『今治市中心市街地グランドデザイン』の策定に向けて

- （１）これまでの取組
- （２）今年度の取組
- （３）今年度の具体的な検討内容
- （４）今後のスケジュール

議事概要

【委員意見】

○まちづくり市民会議（エリア別・全体）について

- ・ 美保町は現地を見に行き、防潮堤に文化的な価値があることや、中心市街地のエリア外にはなるが、未利用地を今後活用していきたいこと等について話した。
- ・ 【事務局】美保町は漁村の風景だけではなく、防潮堤のようなものも地域資源としてあるということを発信できるとよい。
- ・ 防潮堤は、服部長七が築いた人造石の防波堤のことだと思いますが、現在は、防潮堤の前に資材が置いてあるため、人が回遊できる道路にはなっていないのではないかと。
⇒サイクリングの方はよく通るし、このルートは波止浜海岸まで続いているので、特に海外の方は喜んでくれている。現状のままだでも今治らしさもあると思う。どうしてもきれいなまち並みを作りたくなるが、それが今治らしいかどうか。今治のDNAを大事にしたい。
⇒資材は、使用していないものから少しずつ撤去を進めている状態である。
- ・ グランドデザインを策定した後、誰が担って次の代に続いていけるのかも考える必要がある。
- ・ 作成のプロセスも重要で、担い手（プレイヤー）探しも続けてもらいたい。
- ・ 各エリアを未来へどうつないでいくのかを、地域の方々と一緒に考えて、それをグランドデザインに反映していく。そのプロセスの中で市民へのインプット・情報提供として、あらためて自分たちが住んでいるまちの良さに気づいてもらいながら将来像を考えていくことが重要で、それを各エリアで進めていっていただきたい。

○ネットワーク空間特性とアクティビティの分析について

- ・ マルシェと夜市が合同で開催されたときは通れないほどの通行量で、商店街を抜けて人の流れが続いた。おんまくの時もかなりの通行量になることが予測されると思うが、それぞれ連携してはどうか。
- ・ 交流人口・滞留人口を増やすという軸と、より暮らしやすい環境づくりや今治に住んでみたい人を増やすという軸があると思うが、どの軸に対して何を供給するのか。グランドデザインができて、どのように運用されていくか。どういうコンテンツになっていくか。それを考えることも大事ではないか。
- ・ ネットワーク空間特性の分析で大事なのは、いかに“近い”と思わせるかだと思う。それを可視化することが大事だと思う。昨年度は商店街周辺の行動分析を示してくれたから、今年度の分析は、「まちが使いやすい」ということを示せるような行動分析も出してもらいたい。
- ・ アクティビティ分析の歩行量分布調査で、5 分間のサンプル調査とあるが、調査方法を教えてほしい。松山市では、カメラを活用した人流分析等を行って事業者に公開している。
⇒【事務局】前提として、今回の調査で把握するのは現状がどのように使われているかで、各計画を作成するための基礎調査になる。5 分間としているのは大きな人の流れを把握するためで、限られた調査員で工夫して行われる手法の一つ。効果検証を議論することも可能になる。
⇒【事務局】調査結果は GIS で作成するため、最終的にはオープンデータにしていきたい。
- ・ まちづくりと持続可能な公共交通は両輪になっていく必要があるため、ぜひ人の動きがわかる調査をしていただきたい。
- ・ 調査結果には、機運を盛り上げるための効果があると思う。分析の観点をダイジェストに伝えて、住民・まちづくり団体にも示されると盛り上がると思う。エリアの中で感覚的だったものが、同じあるいは違っていたりするとおもしろいのではないか。